

第 23 回 武甲山

第5支部 東邦化成(株)
副理事長 磯 部 進
平成 17 年 8 月 28 日 曇り

8月28日午前9時、西武秩父駅に6名が集合した。一行は三共商事の小川さん、丁子屋塗料の秦さん、若林商店の若林さん、東洋塗料商会の大根田さん、そして幹事の乾さんと小生でした。武甲山の上の方はガスっていて見えない。天気は今一だ。梅雨空のようで、夏の終わりらしくない天気だ。武甲山は東側半分が石灰岩の採石のために無残な姿を晒している。採石のため、本来の標高 1,295m は 40m 近く低くなっていると言う。

秩父駅から、2台のタクシーに分乗し、浦山口に向かった。運転手に聞くと、夜半に雨が降ったとのこと。途中、電車の車窓からは道路が乾き出しているのは見えた。まあ、何とかもつだろうと思ったら、霧雨がぱらついて来た。車は林道に入り、ガードレールも無い腹を擦りそうな悪路をしばし登ると浦山口についた。ここまで¥2,020 は安いかもしれない。

霧雨は直ぐに止み、9時26分、一行は武甲山を目指して出発した。曇りが幸いして、気温も低く日差しも無い。比較的に緩やかな登りを行くと、長者屋敷登山道の分岐に出る。ここから長者屋敷の頭871mまで九十九折の直登が待っていた。喘ぎながら10時14分、長者屋敷の頭に到着。爽やかな風が抜けていた。

ここからは緩い登りが約20分、第6待避所まで続いた。待避所とは採石場の発破作業時に退避する場所で、水場もあった。ここには待避所の説明板があり、頂上まで6分間隔で設置してあることが書かれていた。ということは $6 \times 6 = 36$ 分、あと36分で頂上に着ける訳である。ところがどっこい、6分どころの間隔じゃない。46分かけて、やっとの思いで表参道の合流地点に到着した。標識には頂上まですぐと書いてある。疲れていた一行は、もう騙されまいと小休止に入った。が実際には頂上まで5分かからなかった。武甲御嶽神社下で上田の原さん夫妻と合流、総勢8名となる。

頂上はガスっていて景色は何も見えない。真上のガスの中から太陽の熱線が届いている。晴れていたら大変だったろうな。お茶を沸かし昼食を取り、12時20分頃、下山を開始した。下りは滑り易い。注意しながら、ゆっくり下る。

1時間20分程で不動の滝。水を飲み、靴の汚れを落とし、再度下り始めた。ここから30分で武甲御嶽神社の大鳥居である。入口には狛犬が4頭いる。この狛犬が4頭とも顔が違う上、ものすごい形相なのだ。犬というより、狼をイメージしているようだ。

14時丁度、ここまで来ると駐車場がある。早速、携帯でタクシーを呼ぼうと思ったが、圏外であった。仕方なく、車道をとぼとぼと歩き出した。なかなか電波が通らない。何と鳥居から30分強も下ったセメント工場にたどり着くまで携帯は使えなかった。皮肉なことに、ここには公衆電話もあった。先に到着した乾さんが電話をしてくれていて、10分弱で、タクシー到着。その頃には全員到着して、即、武甲温泉へ向かった。

武甲温泉はこじんまりした健康ランドで、3時間入浴券が700円だった。疲れている中、全てがセルフサービスであるのには閉口した。湯上りのビールを飲み干してから、メニューを決めていたら、何と小川さんが数人前づつのつまみを調達して来てくださったのだ。皆さんお疲れの中、ありがたいと思った。また、得意な人がいてくれて良かったと思った。様々なつまみとビールと地酒の冷酒に囲まれて幸せだった。

有効時間3時間も使わず武甲温泉を後にした。送迎バスは終わっていて、横瀬駅まで歩いて行った。丁度、飯能行き上り電車が到着、間に合わないと思ったら、下り電車との交換。全員、無事に電車に乗り込み、帰路に着いた。